



同じ中学校に通う同級生、戸山ミナちゃんと平山ジローくん。米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしいかちゃんといっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今回は、旧加茂川の地蔵について学びます。

ミナちゃん：米子城下を流れる旧加茂川のお地蔵様は、江戸時代中期（1770年代頃）に米子にやってきた宮大工の棟梁彦祖が、川で水死した子供の霊を慰めるために祀ったのが始まりだといわれているのよね。

かちゃん：そうだったね。その後彦祖は、旧加茂川の橋の近くに36か所もの巡拝するための地蔵を祀り、お堂を建てたといわれているんだよ。

ジローくん：西倉吉町と尾高町の境で旧加茂川が外堀に向かってかぎ型に折れているところがあるよね。あそこは川の流れが激しく深みもあり、水難事故が多かったのだから、犠牲者の供養のために曲がり地蔵が祀られたって聞いたんだけど、それも彦祖と関係があるのかな。

かちゃん：はっきりとはわからないけど、やはりこの地域での地蔵信仰の流れを汲んだものなんだろうね。現在のお堂は昭和57年に建てられたもので、そこには江戸時代の終わり頃の嘉永4年（1851）の棟札が残されており、川守地蔵堂と書かれている。どうやらそれが正式名称らしいね。

ミナちゃん：現在、旧加茂川沿いには、鳥取県西部総合事務所付近の並木橋近くにある覆地蔵から河口の米子港にあるみなと地蔵まで、二十数か所にお地蔵様があるそうね。

ジローくん：江戸時代のものから平成の時代のものでいろいろあるらしいよ。

ミナちゃん：延命とか進学とか、時代を反映するようにご利益もさまざまだね。

かちゃん：イボとり祈願のみそなめ地蔵や再生・建て直し祈願の出現地蔵、町の活性化の源となる笑顔の人生が送れるよう祈願する咲い地蔵などさまざまな霊験のお地蔵様があるんだ。それだけ地蔵信仰が、時代を越えて人々の暮らしに深くかかわってきたということなんだろうね。

ジローくん：そういえば、家族が亡くなるとお地蔵様にお札を貼ったりもするよ。

かちゃん：札打ちのことだね。地蔵信仰が盛んな米子地方独特の風習で、死者の供養のため、身内のものが米子の町中や近郊の何か所もの地蔵を巡拝し、「南無地蔵大菩薩」の文字と戒名、行年を記した白い紙札を貼って回るんだ。これを四十九日までに7回繰り返し、7回目には止め札という赤い紙札を貼る。旧加茂川界限では、よく見かける光景だよ。

ミナちゃん：あー、あれはそういうことだったのね。旧加茂川のお地蔵様は、大江山麓地域の日本遺産ストーリーにも組み込まれているし、これを契機に、改めて地蔵信仰について考えてみるのもいいかもね。

かちゃん：8月23日（火）の加茂川まつりがますます楽しみになってきたね。加茂川まつりは、子供の健康や安全を願う地蔵盆に合わせ、加茂川の清流復活など地域の願いを込めて行われるにぎやかなお祭りだよ。

ジローくん：「夏の米子城下町 がつつりウォーク！お地蔵様バージョン」だね！



曲がりの地蔵（川守地蔵）



川守地蔵堂棟札



加茂川まつり

霊験あらたかな旧加茂川のお地蔵様、今年の地蔵盆にはみんなで出かけてみましょうね。次回もおたのしみに！

（米子市教育委員会 文化課）